春・秋連結　｜　今出川校地開講科目

未来につなぐ！
世界と日本の着物絵本制作プロジェクト

1　目的・概要

皆さんは着物産業が年々衰退し、市場規模が縮小し続けていることをご存じでしょうか。市場規模は 1980 年前後のピーク時は 1 兆 8,000 億円だったのに対し、2010 年では 3,000 億円、2020 年では 2,380 億円と大幅に縮小しています。

呉服市場の再生を願うところではあるものの、産業として今後も発展させていくことが難しい状態になりつつあります。需要縮小の中、染織作家や一部の着物ファン層だけでは維持が難しく、職人は減少、後継者も減り、廉価品が出回り、シルクの着物はより手の届かないものになるという状況です。

本プロジェクトでは、着物産業（主に西陣織市場）はこれまで大人に対してマーケティング活動を行ってきましたが、未だその効果は見えておらず、このままでは日本が世界に誇るべき伝統文化である「西陣織」が後世に伝わらなくなるかもしれません。私たちは着物産業衰退の現実を受け、着物を後世に残していくためには、従来のように大人をターゲットにするのではなく、これから大人へと成長していく若い世代へ着物の魅力を伝えることが必要であると考えました。そして、１年間の講義（春学期・秋学期）を通じて、京都の伝統産業である西陣織を題材とした絵本を作成し、完成した絵本を元にプロモーション活動を行うことによって、日本の伝統文化である西陣織の魅力を普及させようと考えました。

このプロジェクトで達成すべき目的は、以下の 4 つを設定しました。

①「着物の魅力を知ってもらう」
②「着物ができる過程を知ってもらう」
③「着物を着たいという気持ちを高める」
④「着物を普段着として着たいという気持ちを高める」

尚、上記はプロジェクト開始時に定めた目的であり、本活動を行う中で、随時軌道修正を行いました。

プロジェクト全体の流れは以下の通りです。

1. 着物職人訪問・工房見学

着物産業の内情について知るために、直接西陣織職人を訪ね、工房見学を行いました。工房見学を通して、職人の想いに触れるとともに、製品としての素晴らしさや着物の魅力を再確認したことに加え、着物産業が衰退している現実を職人から生の声を伺いました。

2. 絵本制作

私たちは、若い世代である子どもたちに西陣織を伝える手段として、子供にも親しみやすい絵本で着物の製作工程を伝えよう、と決めました。子どもに伝えるためには、子どもにとって身近な存在である絵本が有効であると考えたからです。さらに、西陣織の製作工程をありのままに描いた専門書などはあっても、それを子ども向けに説明した絵本はおそらく存在していない点に着目しました。製作工程を忠実に描きつつ、製作過程をわかりやすく伝える絵本が良いのではないか？という意見から、当初掲げた 4 つの目的の『②「着物ができる過程を知ってもらう」』に着目し、重視した内容でストーリーを製作することにしました。

ストーリー構成とレイアウトはプロジェクトメンバー全員で考案し、ラフ画を作成。適宜、イラストレーターさんにご指導・アドバイスいただきながら、作り上げました。

3. プロモーション（絵本の読み聞かせ会・着付け体験教室）

私たちは、本プロジェクトにご理解いただいた 3 つの施設（保育園・小学校）にご協力いただき、制作した絵本の読み聞かせ会を実施いたしました。

プロモーションを通して、子どもたちの着物に対する興味・意識にどのような変化があったかを測るため、プロモーション前と後の 2 回に渡って同じ質問のアンケートを実施。絵本及びプロモーション活動が子どもに影響を与えることができたかを検証しました。

Annual Schedule

2022 年	4 月	プロジェクト概要理解／役割決定／見学前学習
	5 月	西陣織職人訪問・工房見学（図案家・紋意匠・整経・引箔）
	6 月	西陣織職人訪問・工房見学（絣・整織）
	7 月	絵本・読本計画立案
	8 月	絵本・読本制作
	9 月	プロモーション計画立案／プロモーション計画立案
	10 月	絵本・読本制作／プロモーション先への打診・交渉
	11 月	プロモーション先との最終打ち合わせ／リハーサル
	12 月	プロモーション先での発表・振り返り・改善点の検討
2023 年	1 月	アンケート集計・考察

2 成果達成度

プロモーションの結果、私たちが特に重要視していた②「着物ができる過程を知ってもらう」に関しては、プロモーション前はたった 15% のお子様しか着物の製作過程を知らなかったのに対し、プロモーション後は 100% のお子様が着物の製作過程を理解している、という結果が分かりました。こ

のことから、②については大きな変化が現れたことが分かります。

しかし、①「着物の魅力を知ってもらう」、③「着物を着たいと思う気持ちを高める」及び④「着物を普段着として着たいと思う気持ちを高める」に関しては、プロモーション前後で大きな変化を見ることは出来ませんでした。

3 プロジェクトを通じて

今回のプロジェクトを通して、着物産業活性化のカギとなる可能性を見出すことができました。それは、「着物の製作工程」はまだ子どもたちには認知されていない、という点です。西陣織の製作工程を認知していない世代が、製作した絵本をきっかけに、製作工程に興味を持ってくれたことが分かりました。

製作過程をありのままに伝えるという体験的な側面には、着物産業がまだ手を伸ばしていない可能性を秘めているため、産業として再興させる糸口があるのではないかと考えています。

絵本は西陣織に興味を持ってもらうきっかけとして有効でしたが、今後はその興味を産業活性化とつなげていためには、工場見学ツアーなどの体験型プログラムを行うと、より産業が拡大できるのではないかと考えました。

編集後記

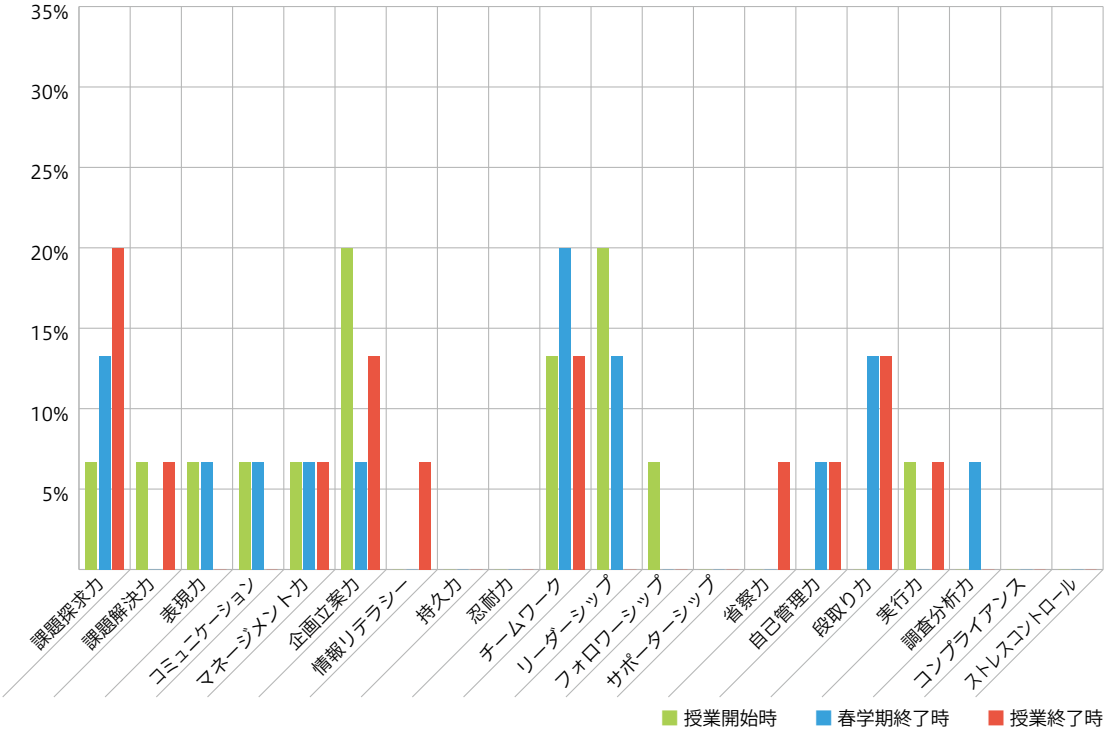
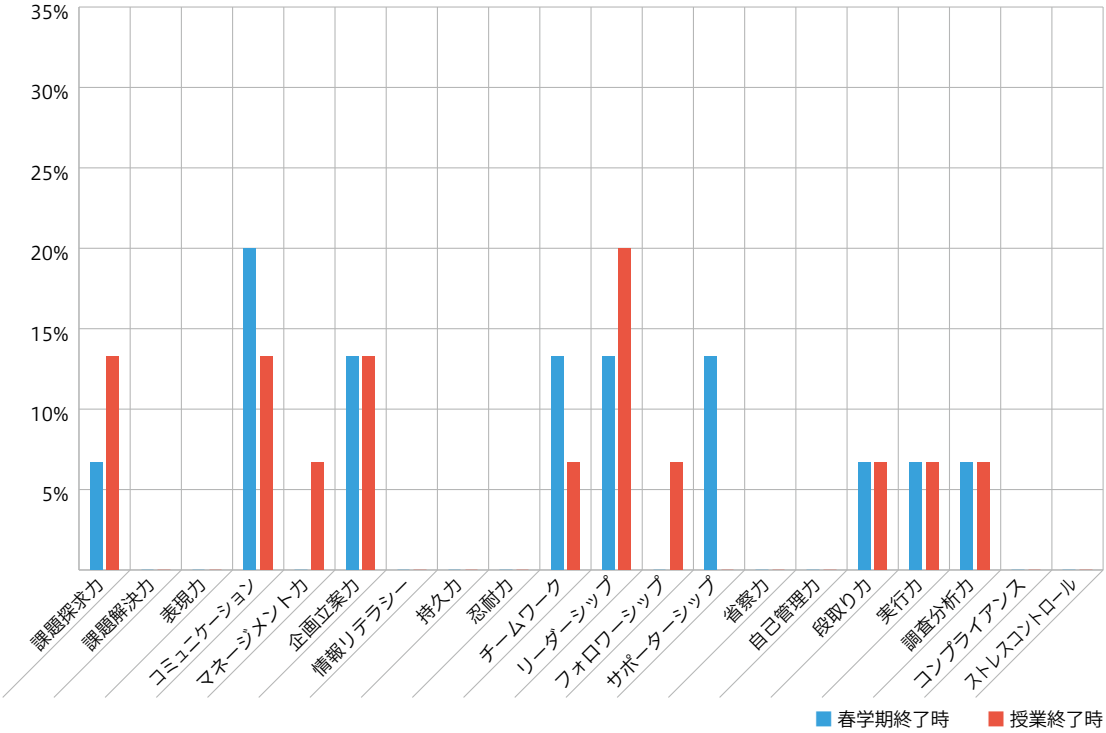
この一年間は、座学では経験できない貴重な経験ができた大変濃密な時間でした。着物製作への理解を深めることからスタートし、どんな絵本を制作するか試行錯誤した結果として、絵本という形ある成果物を集大成として生み出すことができたこと、そして複数の学校を訪問し私たちのオリジナル絵本のプロモーションを行えたことを非常に嬉しく思います。プロジェクトを通して各々が肌で感じた着物の魅力を多くの人に伝えたいという思いは、本活動にとどまるものではありません。それほどに、私たちとって本プロジェクトは大変意義深いものでありました。活動を無事完遂させることができたのは、担当の先生方、科目関係者の方々、ご協力してくださった会社様や伝統工芸士の方々のお力添えがあったからだと感じています。メンバー一同、心より感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

プロジェクトメンバー

早川 亜希（経済2）　秋山 七海（政策2）　開髙 礼香（政策2）　埜村 明生（政策2）　占部 史夏（心理3）

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。